プラン・インターナショナルとは

Until we are all equal

誰もが平等な世界を目指して

国際NGOプラン・インターナショナルは、誰もが平等で公正な世界を実現するために、子どもや若者、さまざまなステークホルダーとともに世界80カ国以上で活動しています。子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決にむけ取り組んでいます。子どもたちが生まれてから大人になるまで寄り添い、自らの力で困難や逆境を乗り越えることができるよう支援します。

日本の活動の歴史

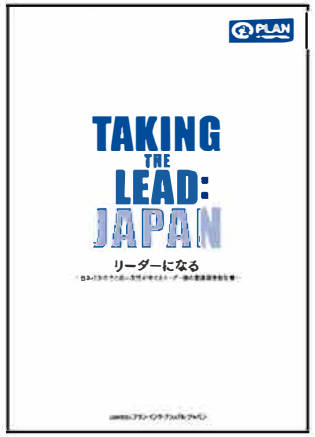
- 1983年 フォスター・プラン日本事務局として創立
- 2008年 世界の女の子の権利を促進する「Because I am a Girl」を開始（2022年修了）
- **2020年　池袋で女の子の居場所づくりをスタート**
- 2023年　日本で活動開始40周年

©Plan Internationa/Miki Nagashima

プランの考える女の子のリーダーシップと日本

プランが目指す女の子のエンパワーメント

- 学び(Learn)、
- 先頭に立ち(Lead)、
- 自分で人生を決定し(Decide)
- 差別や暴力のない環境で成長できるようにする(Thrive)



データ出典:『リーダーになる～女の子と若い女性が考えるリーダー像の意識調査～』(2019年)

日本では…

- 53%が何らかの分野でリーダーになることを希望(19カ国平76%)
- リーダーとしての能力に「かなり自信がある」と「少し自信がある」と回答した日本人は27%(19カ国平均62%)
- 「日本社会では女性は仕事とキャリアを両立させることが困難」と認識。

➡「女性に対する差別をなくすこと」がリーダーになる道筋

©Plan Internationa/Miki Nagashima

「わたカフェ」でみえる女の子の生きづらさ

PLAN INTERNATIONAL
Until we are all equal

（女の子が抱える生きづらさとその原因）

貧困・生活困窮
・家庭の経済状況の悪化
・学費の上昇、奨学金返納

特に女の子が直面しがちな問題
・性被害、性的虐待
・望まない妊娠
・ヤングケアラー

孤独・孤立
・親や家族との不和、家庭での暴力・虐待
・学校や職場などでの人間関係の困難さ

メンタルヘルスの不調
・不安、無力感、希死念慮
・うつ、適応障害、発達障害
・自殺

支援の少なさ
・18歳で行政支援の多くが終了
・居場所がない、頼れる人がいない

貧困家庭で育った。引きこもり、高校卒業以来何もしていない

母子家庭で家に誰もいないので、なるべく遅く帰りたい

大学在学中、仕送りだけではやっていけない。将来に希望がもてない

通信制高校に通っている、誰かと話す機会が欲しい

生活保護を受けて単身生活。将来が不安

今月中にアパートを出なければいけないが、どうしていいかわからない

精神的に不安定で居場所がない

※これらは「わたカフェ」利用者から集まった声の代表例です

- 対象：15～24歳女性
- 自由に過ごせ（飲食、読書、DVD鑑賞、宿題、昼寝など）、希望者には社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、助産師らが個室で相談（約50%が希望）
- 月平均利用者数（24年2月末日）149人、リピート率は約60.4%
- 初回来所時に社会関連性指標に基づくアンケート実施

アンケートから見えること：
➡ 相談先があり、家族との交流、趣味もあるが、精神的な相談が多く、つらさを抱えている
➡ 誰かと話したいと思っている利用者が多い

スタッフの意見から：
➡ コミュニケーションが重視される中で学校や社会になじめない子が増えている
➡ 教師でも親でもない大人と話すことで安心し、自身をもてるようになる

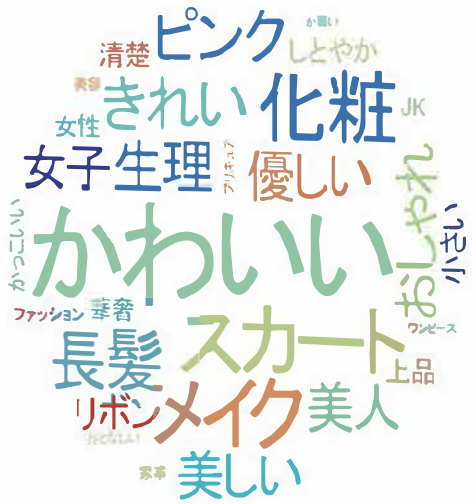
データ出典：https://www.plan-international.jp/about/pdf/plan_watacafe_28p_outline0425_light.pdf

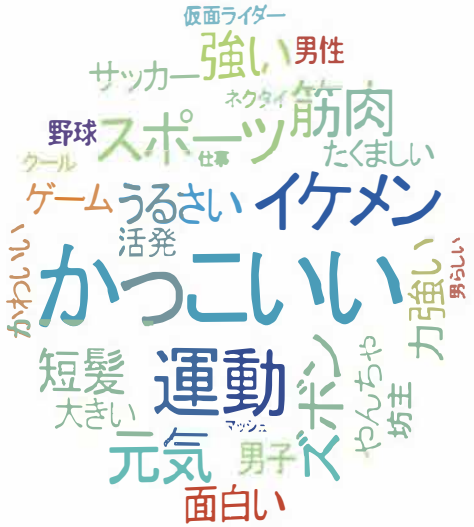
©Plan Internationa/Miki Nagashima

生きづらさを生み出すステレオタイプ

2022年プランの高校生2000名を対象に実施したジェンダーステレオタイプに関する調査

- 高校生の段階でジェンダー・ステレオタイプが形成（幼少期から徐々に形成）。
- 4人に1人が、ジェンダー・ステレオタイプ的な表現や発言を受けた経験がある。





図出典：プラン・インターナショナル・ジャパン「性別にとらわれず自由に生きるために～日本の高校生のジェンダー・ステレオタイプ意識調査～」（2022年4月）

男の子だから泣くな

女の子だから
料理できないと

男の子は重い荷物もって

女の子は身ぎれいに
しないと

©Plan Internationa/Miki Nagashima

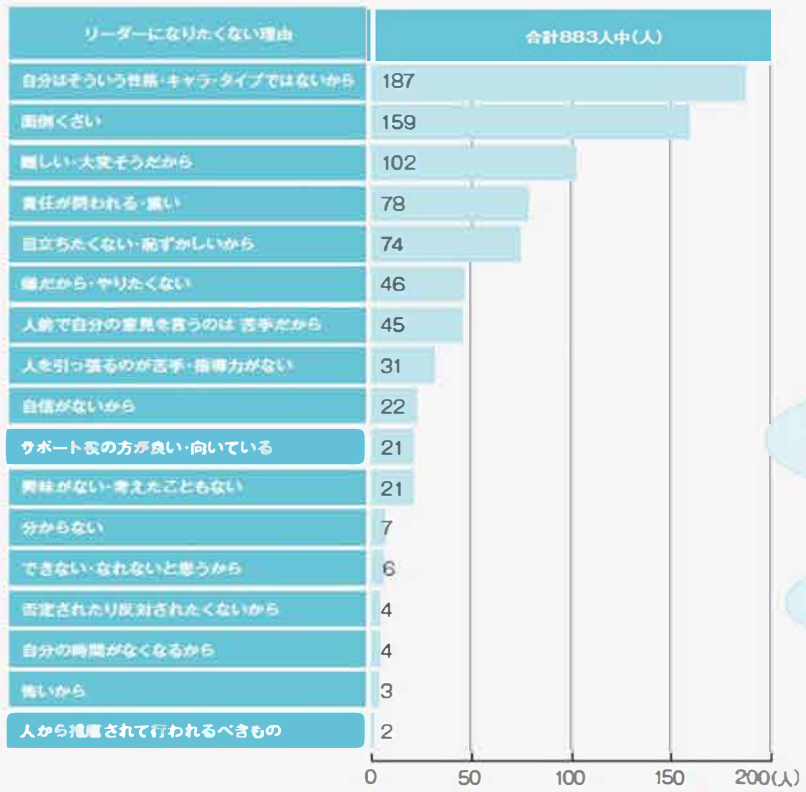
背景にある女の子自身の「あきらめ」

滋賀県大津市の「小中学校における児童生徒のリーダーシップ及び男女共同参画に関する調査」(2020年)

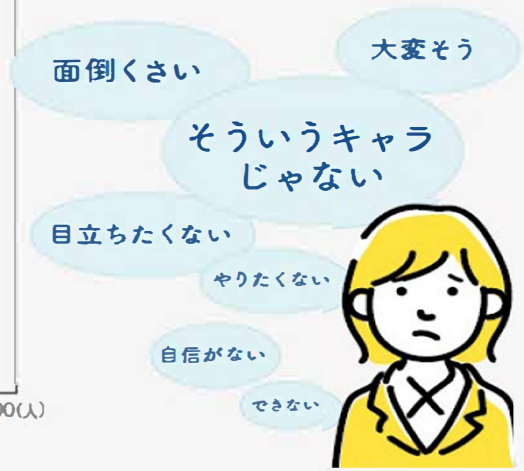
- 小学校では会長・副会長は男女半々
- 中学生で「会長は男子」と考える生徒が19.1%（「会長は女子」と考える生徒は1.9%、「副会長は男子」と考える生徒は4.3% 「副会長は女子」だと考える生徒が12.9%、）
- 中学生ではリーダーは男子が多いと考える生徒が、女子が多いと考える生徒の約2倍いる
- 女子生徒の方が生徒会長への就任を希望する比率は高いが「目立ちたくない」「失敗回避」などを理由に、リーダーの立場に就くことを望まない女の子は男の子より多い。

表14 「リーダーになりたくない」理由（自由回答をもとに作成・複数回答可）と883人の内訳

自分が人前に出て意見を述べたり、回答したりする性格やキャラクターではない、と挙げる人が多く見られました



	合計（人）	共学校（人）	女子校（人）
合計	883	447	436
中学1年	129	62	67
中学2年	165	89	76
中学3年	158	77	81
高校1年	142	80	62
高校2年	137	71	66
高校3年	152	68	84



大津市「小中学校における児童生徒のリーダーシップ及び男女共同参画に関する調査　最終報告書」（2020年3月）
グラフ出典「日本における女性のリーダーシップ2022」（2022年3月）

©Plan Internationa/Miki Nagashima

解決策としてのワークショップ／教材／発信

Until we are all equal

参加者がジェンダーに関する自分の考えを共有し、まわりの意見を聴きながら気づきを起こす参加型ワークショップを学校・企業・団体向け開催。

- ◆ジェンダーの考えやイメージを共有
- ◆ジェンダー課題（賃金格差、リーダーシップ、無償ケア労働など）などを考える
- ◆女の子のリーダーシップ

ユース自身の試み
もやもやを漫画に
https://www.plan-international.jp/news/20240404_38546/